

環境リサイクル設備 海外展開を強化

東南アジア市場拡大にらむ

【滑川】環境機械メーカーのエムダイヤ(本社=富山県滑川市、森弘吉社長)は、タイヤや光ファイバーといった異素材混合リサイクル資源の分離・破碎機など環境リサイクル設備の海外展開を強化する。日本のリサイクル市場は成熟しており今後大きな成長は期待できないため、経済発展に伴ってリサイクル資源の発生増が見込まれるインドネシア、タイ、ベトナムなどの東南アジア市場の販路を開拓する。



森社長

エムダイヤ

主力製品の一つである「エコセパレ分離・破碎機」は、タイヤや光ファイバーをはじめとする異素材混合のリサイクル資源について、金属やゴム、樹脂

などを高い精度で破碎・分離して後工程で選別する。独自の刃物構造による剥離技術を開発。日本、米国、中国、韓国の4カ国で特許を取得している。また技術革新の都度、追加で特許を取得。商標登録もしている。

分離・破碎機以外にも切断機の「エコカッター」シリーズや、電子基板上の部品類を削り取り基板と部品を分離してリサイクルしやすくする基板剥離機なども製造・販売。これらのリサイクル設備は分離・破碎機と同様に特許取得や商標登録など知財戦略を進める一方、自動車や家電、電線、製錬など国内の大手メーカーやリサイクル子会社などに直接納入するビジネスモデルを確立している。独立系のリサイクル会社や産業廃棄物処理会社なども顧客になってい

る。

しかし日本のリサイクル市場は成熟。人口減少などの要因もあり今後の成長は期待できない。一方の東南アジアは経済発展に伴って

リサイクル市場も高成長が期待できる。すでに中国には日系商社の子会社に分離・破碎機を納入済みだが、今後はタイ、ベトナム、インドネシアなどで販路を開拓する。

2015年には国際協力機構(JICA)の中小企業海外展開支



本社工場

援事業の「案件化調査」に採択され約1年かけて現地のニーズや採算性などを調査。現地ネットワークを広げ、タイミング次第でいつでも参入できる体制を整えた。タイやベトナムでもパートナーとして有望な現地企業を発掘。IoT(モノのインターネット化)をはじめとするさまざまな技術を活用したリサイクル設備の販路開拓を図る方針だ。

東南アジアに進出した日系企業との協業によるリサイクル事業なども検討する。単純な機械販売だけではなく、同社のリサイクル設備を活用した幅広いリサイクル事業を共同展開することなども視野に入れている。(5面の中日本ネットワークに関連記事)